

# 閣議決定 移設 野古 辺

## 拒否の福島氏を罷免

### 首相謝罪「沖縄傷つけた」

鳩山由紀夫首相は28日夜、臨時閣議を開き、この日午前前に発表した日米共同声明を確認し、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）を名護市辺野古周辺に移設するとして政府方針を閣議決定した。これに先立ち、社民党党首の福島瑞穂・消費者担当相が閣議決定への署名を拒んだため、首相は福島氏を罷免、同党は連立政権離脱の検討に入った。首相は記者会見で「5月末決着」の前提としていた地元と連立与党の合意が得られなかったことを認め、陳謝した。政権内では首相への失望が広がっており、政権運営は厳しさを増している。

鳩山首相は28日夜、首相官邸で記者会見し、「自分の言葉を守れなかった以上に、沖縄を傷つけてしまった」と述べ、合意を置き去りにした地元を陳謝した。移設先を「辺野古」と明記したことについては「代替施設を決めない限り、普天間の返還はないからだ」と釈明。自身の政治責任

については「国民に理解を深めてもらうよう、これからも最善を尽くす」と述べた。首相は「県外に代替施設を見つけれないかという思いで（昨年末以来）探したが、海兵隊全体を本土に移す選択肢は現実にはありえなかった」と、見通しの甘さを認めた。現行案とほぼ同じ場所に戻ったことについて「（移設先となった）名護市の多くが受け入れられないというのわかる」とした上で、「もっと時間があればという思いがなかったわけではない」と、悔しさをにじませた。

地元、連立与党よりも日米合意を優先させたことについては、「日米の信頼関係を維持した」と説明。自身の政治責任については「国民に理解を深めてもらうよう、これからも最善を尽くす」と述べた。首相は「県外に代替施設を見つけれないかという思いで（昨年末以来）探したが、海兵隊全体を本土に移す選択肢は現実にはありえなかった」と、見通しの甘さを認めた。現行案とほぼ同じ場所に戻ったことについて「（移設先となった）名護市の多くが受け入れられないというのわかる」とした上で、「もっと時間があればという思いがなかったわけではない」と、悔しさをにじませた。



記者会見する鳩山由紀夫首相。28日午後9時2分、首相官邸、橋本弦撮影

## 見識なき政治主導の危うさ

政治エディター 渡辺 勉

鳩山由紀夫首相は28日の記者会見で、日本の安全保障と沖縄の負担軽減を同時に探る考えを初めて示した。日米同盟の安定的な維持と普天間飛行場の危険性の除去を両立させる現実的な選択は、辺野古への移設しかない。ただ、移設を実現するには、基地問題を「差別」と考える沖縄県民の信頼を回復する必要がある。そのためには、首相は基

地被害を減らすよう米国と粘り強く交渉するべきだ。見識のない政治主導がいかに混乱を招き、不信をもたらすか。この8カ月余、国民はまさきと見せられてきた。2006年の現行案を決めるまで、日米の実務者は約2年半、協議した。そこでの一貫した課題は、北朝鮮の核・ミサイル問題に加え、中国の軍事力の増強と影響力の拡大

にどう対応するかだった。性根を向上させる中国潜水艦への対策や、在日米軍基地が攻撃された場合の対応も協議したが、世界戦略の中で同盟強化を求める米国内負担の軽減を求めるとの溝は深かった。その微妙な均衡の上

に06年合意があった。その均衡を、首相が「最低でも県外」という不用意な発言で壊してしまい、慌てて取

り続けたのが、今回の日米共同声明だろう。寄り合い所帯の民主党にとって安保政策は最大の弱みだった。政権交代を最優先するあまり、総選挙では安保政策を詰めずに棚上げ。社民、国民新党との連立協議でも移

政権に就くと「政治主導」を掲げ、06年合意にかかわっ

た官僚を頭から信用せずに排除し、首相を筆頭とする官邸高官だけで米国や沖縄県と交渉。状況も把握せずに突っ込み、かえって日米関係を悪化させるという危うさだった。

日米同盟が揺れ動く間、北朝鮮が韓国哨戒艦を撃沈し、中国海軍艦隊が示威するよう

に沖縄本島と宮古島の間を通り過ぎた。こうしたアジアの情勢を見すえ、首相は日米同盟を中長期的に安定させる責任がある。政治家や官僚、有識者

を交えた超党派の日米戦略対話を始めて、政権の外交、受け止めてほしい。

## 社民、連立離脱論強まる

社民党の福島瑞穂党首は28日夜、閣僚罷免後に党本部で記者会見し、「社民党は沖縄を裏切ることではない。これ以上の負担を押しつけることに加担もできない」と強調した。同党所属の国会議員は衆参12人で、大半は連立離脱に慎重だった。だが、最後まで党の主張を貫いた党首が罷免されたことで、政権に残留する理屈が立ちにくくなり、連立離脱論が強まっている。福島氏は会見で、政権離脱

## 政権、一層の弱体化

鳩山由紀夫首相は普天間問題の「5月末決着」の一応の体裁を整えたが、その代償は大きい。土壇場で社民党の離反を誘発し、民主党内から首相批判が公然と噴き出す状況を作り出した。7月の参院選を前に、政権基盤は一層、弱体化した。

普天間問題の決着について、首相は沖縄県などの地元自治体、連立与党、米国の合意が必要と強調してきた。だが、米国の合意を優先し、地元や社民党との意見調整に失敗。党内には「官邸は

この決着を急いでほしい」と受け止めてほしい。

また、重野安正幹事長はこの日、民主党の小沢一郎幹事長と電話で会談。重野氏が夏の参院選に向けて社民党候補の支援を求めると、小沢氏は「今後も固く協力していく。心配しなくていい」と語ったという。

また、重野安正幹事長はこの日、民主党の小沢一郎幹事長と電話で会談。重野氏が夏の参院選に向けて社民党候補の支援を求めると、小沢氏は「今後も固く協力していく。心配しなくていい」と語ったという。

### 閣議決定の骨子

- 日米両政府は、2006年の「再編の実施のための日米ロードマップ」の一部追加・補完し、着実に実施することを再確認
- 普天間飛行場の早期移設・返還のため、代替施設をキャンプ・シュワブ辺野古崎と隣接水域に設置
- 政府として、日米共同声明に基づき、普天間移設計画の検証・確認を進める。基地負担の沖縄県外または国外への分散、在日米軍基地の整理・縮小に引き続き取り組む

### 首相会見のポイント

- 当初思い描いていた沖縄の負担軽減と比較すれば、小さな一歩にすぎないが、この一歩がなければ前進できない
- 日米の信頼関係を維持することが最大の抑止力なので、日米合意を優先させた。最も大切な沖縄県民の理解を得られるにはいたっていない
- 自分の言葉を守れなかった以上に、沖縄を傷つけたことに心からおわびを申し上げる
- 社民党とは基地問題に対する考え方に根本的な違いがあった。福島氏には理解してもらえなかった。連立は維持したい
- 1～2年延ばすのは不誠実なので、5月末決着とした。参院選前に決着しないと最大の争点になる可能性があった。ただ、参院選のひとつのテーマになるのは間違いない

ら、新たな閣僚も視野にある」と述べて、連立維持に未練を残した。昨年12月に、決着時期を「5月末」と決めた理由については「沖縄の気持ちを考え、1～2年延ばすのは不誠実に映る。半年程度ということとした」と述べた。7月の参院選の争点になってしまいう事態を避けなかったとも説明。しかし、「ひとつのテーマになるのは間違いない」と語り、結果として争点になるとの見通しを示した。

社民党党首の福島消費者担当相については「基地問題に対する考え方に根本的な違いがあった。日米が合意した以上、署名できないということならば罷免せざるを得ない」と説明。福島氏の後任は置かず、平野博文官房長官に兼務させるが、「社民党が望む結果だ」と説明した。

社民党党首の福島消費者担当相については「基地問題に対する考え方に根本的な違いがあった。日米が合意した以上、署名できないということならば罷免せざるを得ない」と説明。福島氏の後任は置かず、平野博文官房長官に兼務させるが、「社民党が望む結果だ」と説明した。

また、重野安正幹事長はこの日、民主党の小沢一郎幹事長と電話で会談。重野氏が夏の参院選に向けて社民党候補の支援を求めると、小沢氏は「今後も固く協力していく。心配しなくていい」と語ったという。

鳩山由紀夫首相は普天間問題の「5月末決着」の一応の体裁を整えたが、その代償は大きい。土壇場で社民党の離反を誘発し、民主党内から首相批判が公然と噴き出す状況を作り出した。7月の参院選を前に、政権基盤は一層、弱体化した。

## 政権、一層の弱体化

鳩山由紀夫首相は普天間問題の「5月末決着」の一応の体裁を整えたが、その代償は大きい。土壇場で社民党の離反を誘発し、民主党内から首相批判が公然と噴き出す状況を作り出した。7月の参院選を前に、政権基盤は一層、弱体化した。

普天間問題の決着について、首相は沖縄県などの地元自治体、連立与党、米国の合意が必要と強調してきた。だが、米国の合意を優先し、地元や社民党との意見調整に失敗。党内には「官邸は

この決着を急いでほしい」と受け止めてほしい。

また、重野安正幹事長はこの日、民主党の小沢一郎幹事長と電話で会談。重野氏が夏の参院選に向けて社民党候補の支援を求めると、小沢氏は「今後も固く協力していく。心配しなくていい」と語ったという。

また、重野安正幹事長はこの日、民主党の小沢一郎幹事長と電話で会談。重野氏が夏の参院選に向けて社民党候補の支援を求めると、小沢氏は「今後も固く協力していく。心配しなくていい」と語ったという。